

ワンニャン通信7月号

担当:松本

今回は、犬の熱中症についてです🐕

●犬は暑さに弱い??

犬は人間のように全身での発汗による体温調節ができません。口を開けてハアハアと呼吸するパンティングが犬の主な体温調節方法です。体温調節の効率も悪く、全身を毛で覆われている犬は人間より暑さに弱いといえます。

症状は？

- ぐったりしている
 - 食欲がない、水を飲まない
 - 口の中や舌の色が赤い
 - 呼吸が荒い
 - 心拍が速い
- 重症化した場合。。。**
- 嘔吐・下痢
 - 歯茎が白い
 - 舌や粘膜が青紫
 - 痙攣を起こす
 - 意識がなくなる



など

もしかしたら熱中症かも!?

熱中症の症状が見られる時の飼い主さんができる応急処置は？

●移動

室内や日陰など涼しい場所に移動しましょう。室内や車内だとエアコンを効かせるようにしてください。

●冷やす

保冷剤を当てたり常温の水をかけたりなどして体を冷やします。保冷剤は首、脇の下、太ももの付け根など大きい血管が走っているところを冷やしてあげると良いでしょう。扇風機などで風を当てるのも効果的です。

△体を冷やしすぎると低体温状態になってしまうこともあるため冷やしすぎには注意してください。

予防・対策

●お散歩

早朝や日が暮れた後の涼しい時間に行くようにしましょう！しかし暑い日のアスファルトはとても熱くなっているため日が暮れた後でも注意が必要です水分補給ができるように水分も忘れずに持っていきましょう。

●短頭種

短頭種と呼ばれるパグやシー・ズーなどのいわゆる鼻ぺチャの犬種は呼吸器での体温調節が他の犬に比べて鼻が短い分苦手です。特に気をつけて熱中症対策しましょう！

●室内

室内でも注意は必要です。窓を開けて風通しを良くしたり、エアコンや扇風機などを使用したりして室内を高温多湿の状態にしないようにしましょう。

●車内

車内での犬のお留守番はとても危険です。たとえ短時間でも車内は熱がこもりやすく温度はあっという間に上がってしまいます。どうしても車内でお留守番させなきゃいけない時は必ずエアコンを効かせておきましょう。



今回応急処置の方法をご紹介しましたが応急処置を行った、もしくは危険な症状が認められるときはすぐに動物病院を受診しましょう。

人間もそうですが熱中症は命の危険もある怖い病気です。正しい知識を持ちしっかり対策していきましょう。

佐々木先生のコラム



ここのコラムに何を書こうかと考えて、なかなか思いつかなかったので流行りのChatGPTに聞いてみました。「熱中症」というワードを絡めて何回か聞いていくうちにホントか！？と思うようなことを言ってきました。その内容は『シベリアンハスキーやアラスカンマラミュートは熱中症に強い』というものです。そんなことないだろ～と思って色々調べてみると、ホントにそんなことなかったです（笑）寒冷地原産の犬は日本の気候で熱中症になりやすいので注意が必要です！！ChatGPTが生成する文章は、ときに嘘をついてくるので気を付けなきゃですね（無料公開されてるGPT-3は特に）。

話が熱中症じゃなくなってるので話を戻します。今年に入ってすでに数頭、当院でも熱中症患者が来られています。亡くなる寸前の子もいました。なんとか一命をとりとめましかだか...これからさらに暑くなってくるので注意しましょうね！